

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

第2回 日中環境教育情報交流シンポジウム

「日中のパートナーシップによる環境教育

- 総合的な学習をめぐる -」の報告

今回は「地球環境と世界市民」国際協会の中国支部である日本環境教育情報交流協会と日本環境教育学会との両方の組織が共催する形で、「日中のパートナーシップによる環境教育 - 総合的な学習をめぐる -」が開催されました。

第1回の日中環境教育情報交流シンポジウム（日本環境教育学会関西支部共催）は、1999年8月に北京大学において開かれ、日本と中国のパートナーシップの最初の機会となりました。考えてみれば両国の関係も深くまた長いものでありますが、今回のように定期的に文化交流がなされ、さらに続けられることが期待されま

す。

今回の大会テーマにそって、日本と中国とのパートナーシップ、総合的な学習における環境教育情報交流を展開しました。王宗敏先生（天津市教育科学院元院長）に、中国における環境教育の総合的な学習について御講演いただいた後、中国側から宋豫秦先生（北京大学副教授）、田徳祥先生（北京大学教授）より中国側の環境教育についての研究報告、日本側から環境省の浅野能昭氏（環境教育推進室室長）に環境政策におけるパートナーシップによる環境教育の取り組み、和田武氏（立命館大学教授）に日本の大学における環境教育の現状、本庄眞氏（真美が丘東小学校教諭）に小学校における実践について討論していただきました。通訳には金世柏先生（中国中央科学研究所名誉学術員）にお願いしました。

シンポジウムのテーマは「日本と中国における環境教育のパートナーシップ」でしたが、王宗敏先生にも加わっていたいてフロア - の皆様方とともに楽しく討論・意見交流をしました。



王宗敏先生の特別講演



第2回日中環境教育情報交流シンポジウム

フィールドワーク報告

ひょうごオープンカレッジ(2002年度)フィールドワーク報告

田口敬志(甲南大学研究生)

1

本誌 No.8(2002.10.1.)で紹介された、「有機農業体験とピオトープ施設見学」にオープンカレッジ 期受講生(約45名)が参加しましたので、その様子を報告致します。

当日は、冷え込みが強まりましたが、フィールドワークに絶好の秋晴れで、甲南大学環境教育野外施設で、“芋掘り”をし、芋、ピーマン、ナスなどを焼き、有機栽培の野生の味を満喫したあと、玉津と東灘のピオトープを見学しました。

2

玉津処理場は、神戸市西区(山陽新幹線南、明石川左岸)にあり、正式には「神戸市建設局西建設事務所水環境センター」で、神戸市では最も新しい下水処理施設です。ここに下水の高度処理水を活用した「水車とせせらぎの散歩道」が、職員が仕事の合間にすこしずつ手作りで整備されました。処理水が、直径2mの水車1基、150m²のピオトープ池、ホタル水路50m、せせらぎ水路散歩道230mを経て明石川へ放流されています。敷地が南へゆるやかに下っている地形を利用し、水流を速めに設計し、せせらぎの音に自然を創生しています。水車を廻し、獅子齧しのある池、幼虫を育成しホタルを飛ばしたりしています。地域活動の拠点を、処理場の職員が心をこめて維持管理されているピオトープでした。



玉津処理場見学の様子

3

東灘処理場は、神戸市東灘区(住吉川左岸、魚崎南の人工島)にあり、正式には「神戸市建設局東部建設事務所水環境センター」で神戸市最大の処理場です。震災後の復旧工事で、地域になじむ処理場をめざし、遊歩道440m、せせらぎ水路125mが完成しており、市民に開放され、遊歩道沿いに町民が花壇をつくり、憩いの場としています。



東灘水環境センター
ピオトープ構想を語る受講生

運河の南に2,800 m²の空き地が残されており、ここに甲南大学がピオトープの設計を委託されて建設が予定されています。オープンカレッジの修了生も参加できることで、受講生は熱心に見学しておりました。「湿地帯や林を作る」、「築山を造る」、「周囲との遮断に植樹を」、「子供が水の中に入れるように」等、すでに夢いっぱいのお話をしてお見学しておりました。これからのピオトープ活動に、皆様もご協力下さるようお願いいたします。(連絡は事務局P.8まで)

エコッキング研究会

収穫祭：モチつき・飾り切り

岡田泰典（甲南大学大学院生）

甲南大学環境教育野外施設において、12月21日（土）に収穫祭を甲南小学校・甲南女子中高・甲南中高・甲南大学と合同でおこないました。私たち大学生は、生徒の指導という形で参加しました。

もち米は約180kg収穫されました。そのうち、120kgを前日から準備をし、餅つきをおこないました。臼と杵をつかい、手作業でおこないました。小学生は、元気いっぱい初めてみる活動に興味津々な様子でした。男子高校生は、力強く餅をついていました。つくリズムとこねるリズムがなかなかうまくいきませんでした。しかし、かけ声をかけておこなうとリズムよくいくことが分かりました。その後、ついたお餅を女子中学生を中心にみんなで丸め、自分で丸めたできたてのお餅を、しょうゆ・きな粉をつけて食べました。とても柔らかくおいしかったです。生徒達もとても楽しそうに作業をし、出来立てのお餅を味わっていました。

夕方からは、エコッキングをおこないました。エコッキング・インストラクターの方に、りんご・かまぼこなどの「飾り切り」を教えてくださいました。普段できないような貴重な体験ができました。出来上がったものは、十分にきれいとはいかなかったですが、充実感がありました。



甲南女子中学生もモチつき



あついいモチ



男子高校生も一緒に



包丁の手さばきも学びました



皆で飾り切り

トピックス

公開シンポジウム（12月1日）

日本環境教育学会主催講習会・第1回環境教育公開セミナー・公開シンポジウム

総合的学習における「環境教育」の展開

- パートナーシップ、循環型社会、他者・国際理解をめぐる -

成果報告

公開シンポジウム実行委員長 山田卓三

文部科学省の助成を受け「総合的学習における環境教育の展開」のテーマで12月1日、神戸国際会議場において学会主催講習会・第1回環境教育公開セミナーが開催されました。このセミナーは、学会の動向を会員の皆様にご覧いただきとともに、会員の御意見の交流の場をめざしております。さらに、環境教育に携わる各分野のエキスパートや行政・企業・学校関係のリーダーの人たちからの先駆的な取り組みの情報を得ることを、その目的にしております。

テーマは本年度から小学校・中学校・高等学校で開始された「総合的学習の時間」に向けて選定したものです。今回、「環境」に関する授業実践報告やさらには初めての試みとして生徒参加の公開授業も行なわれました。内容は学校、家庭、企業、NGO、行政間の「パートナーシップ」による地域参加の環境教育の在り方が主題としてとりあげられました。招待講演には環境省の浅野 能昭氏、パネリストとして中国から金 世柏氏、公開授業者やパネリストとして会員内外から広くそれぞれの分野での最適の方々にご参加いただくことができました。

第一部は「総合学習の実践のモデルによる公開授業」のテーマで、本学会の広報委員長の金田 平氏のコーディネーターにより行なわれました。ワークショップでは、大阪府千里北高等学校の塩川 哲雄氏による「教科指導における総合的学習の素材活用」として、竹炭焼きや校内の植物観察などビデオを通しての活動



公開授業の風景



公開シンポジウム

紹介と実際に生徒たちが壇上にあがり模擬授業も行なわれました。ワークショップは、泉大津市立上条小学校の植田 善太郎氏による「総合的学習における地域の保全活動とパートナーシップ」のテーマで、大津川の土手に草花を植えるたり川の水質などの調査活動がビデオによって紹介されました。

第二部は「パートナーシップによる環境教育の推進」のテーマで行なわれ、冒頭に環境省・環境教育推進室長の浅野 能昭氏により政府の取り組みの概要の紹介がなされました。それぞれの立場はまず、京都市環境保全活動センターの戸田 耿介氏が地方自治体の立場から「環境施策におけるパートナーシップ」が、次いで、帝京短期大学の佐島 群巳氏が教育学的視点から「総合学習における環境教育のパートナーシップ」についての見解が、また、日本自然保護協会の村杉 幸子氏からはNGOの立場から「パートナーシップによる環境教育の推進」についての解説が、さらに、成城学園初等学校の飯沼 慶一氏からは小学校の立場での環境教育活動の紹介が、三ツ星ベルトの西 徹氏からは企業の立場からの環境教育への取り組みが紹介され、最後に中国中央教育科学研究所の金 世柏氏により日中相互理解と協力の視座からの提言がなされました。この後、参加者からのシンポジストへの質問用紙が集められ、これに対する解説および討論がなされました。それぞれの立場からの考え方や活動が分かりやすく紹介され、有意義な討論がなされました。

全体の参加者数は295名でしたが、参加者から次のような意見が寄せられています。「環境省の浅野氏の話で政府の方針を知ることができ良かった」、「市民、国民の声をもっと行政に生かしたいという考えに共感しました」、「佐島先生の他者の痛みを分かち合う環境マインドの貴重なお話が聴けてよかった」、「金田先生のまとめで環境教育の難しさが再認識できた」、「村杉先生の啓発事業のお話は切実でした」、「三ツ星ベルトの西氏のお話の中で子どもが直接FAXで会社とやりとりした紹介が印象的でした」、「中国の金先生のお話は明瞭でした」など概して好評の意見が多く寄せられました。しかし、「副題に入っている他者・国際理解の視点が今回ほとんど議論されなかった」、「8時間と言う長時間のシンポジウムは集中力が続かない」、「フロアとの交流の時間がもっと欲しい」などの意見もありました。全体としての意見及び感想として、「いろいろな立場の方の話が聞けて良かった」、「現場の意見を聞くということがとても大切だということを実感しました」、「このようなセミナーは他の分野との交流、意見交換のきっかけになると思いますので、今後もやって欲しい」等々。今後もこのような学会としての環境教育公開セミナーを続けて欲しいという意見が多く聞かれました。今回のセミナーは、関西支部の皆さん、それに事務局の甲南大学の学生さんの積極的かつ自主的な御協力無しには実現できませんでした。この場をお借りして感謝いたします。本当にありがとうございました。

(日本環境教育学会「ニュースレター」第56号より転載)

第11回環日本海環境協力会議（NEAC）（12月4日～6日）

本協会の谷口文章会長が日本の代表として政府から派遣され、「環境教育と環境意識啓発」の題目で講演した。

背景：昭和63年以降、韓国の提案に基づき日韓環境シンポジウムが開催されてきた。

この会議に中国が UNEP の協力を得て参加し、さらにソ連（当時）とモンゴルがオブザーバーとして出席したことから、北東アジア各国による情報交換及び地域協力の発展としての可能性が検討されることとなった。平成4年からは、「環日本海環境協力会議」として、この地域の環境問題に関する情報交換及び政策対話を行う場として毎年開催している。

目的：北東アジア地域各国の環境専門家による情報交換及び政策対話の場として、同地域の環境協力のあり方について議論を深める。

参加国：日本、中国、韓国、モンゴル、ロシアの5カ国。

参加者：中国政府の環境担当機関、各国政府及び地方自治体、研究機関等の専門家、NGO。また、国際機関である UNEP（国連環境計画、バンコク）からも専門家がオブザーバーとして参加。

日程：12月4日（水） 中国海南島

12月5日（木） 開会

基調講演

“ Keynote Speech by each country（各国からの報告）”

シンポジウム

“ Environment Education and Public Environment Awareness

（環境教育と環境意識啓発）”

セッション

“ Improvement of water Environment（水環境の改善）”

12月6日（金）

セッション

“ Air quality improbement in urban area(都市部における大気質の改善)”

セッション

“ WSSD Summit and NE Environmental Cooperation

（ヨハネスブルグサミットと北東アジア環境協力）”

全体会合（議長サマリーの採択等）、閉会



エコ・クッキング レシピ 番外編

「エコ・クッキング」について

赤尾多美(エコ・クッキングインストラクター)

「地球環境と世界市民」の会では、これまでに何度かエコ・クッキングについて勉強し楽しんでまいりました。ここで一度、そのまとめをしてみたいと思います。

ひとくちに、エコ・クッキングといいますが、いろいろな考え方があると思います。

<考え方とその実例>

1. 食材を無駄なく使う(廃棄部分の利用)
2. エネルギーの節約
3. 時間の配分
4. 無農薬・減農薬の食材を使用する

食材を無駄なく使う(廃棄部分の利用)

大根・かぶ・にんじんなどの皮.....酢の物・味噌汁に

大根・かぶ・にんじんなどの葉.....ゴマ油でいためて佃煮風に

塩ゆでし、細かくきざんで菜飯に

生しいたけの軸

にんじん・れんこんなどの面取りした廃物.....炊き込みご飯・おから煮に

ブロッコリーの茎.....ゆでてサラダ・ピクルスに

キャベツの葉脈.....ギョウザの具・ピクルスに

小アジなどの中骨.....素揚げにして、塩少々で、おつまみ・おやつに

魚のアラ.....煮つけた後、ほぐして、おから煮に

エネルギーの節約

野菜などは、ひとつの鍋で能率よくゆでる

- ・かたいもの やわらかいもの
- ・アクの少ないもの アクの多いもの
- ・色が出ないもの 色が出るもの

1つのフライパンで時間差で考えて

調理の時間手順を考えて、無駄な温め直しはさける

時間の配分

との関連性が大きい

無農薬・減農薬の食材を使用する。

良心的な生産者・かしこい消費者になること

事務局だより

1. 2002年度日中(中日)環境教育情報交流協会 理事会 議事抄録
(日時:2002年12月1日 会場:甲友会館 出席:【中国側】田・金・王・宋 【日本側】谷・谷口[議長]・赤尾・飯尾・渡辺^産 記録:渡辺

[]報告事項 第2回日中環境教育情報交流シンポジウム「日中のパートナーシップによる環境教育 - 総合的な学習をめぐって - 」(2002年11月30日 於甲南大学 共催:日本環境教育学会関西支部)の事業報告があった。参加者206名であった。また、公開シンポジウム「総合的な学習における『環境教育』の展開 - パートナーシップ、循環型社会、他者・国際理解をめぐって - 」(2002年12月1日 於:神戸国際会議場 主催:日本環境教育学会)において、シンポジストとして金世柏氏が発表。

[]審議事項 (1)第3回中日環境教育情報交流シンポジウムの開催について: 標記会議を2003年8月 ハルビン工業大学において開催する予定。エコツアーについて:小興安嶺原生林、アカマツ森林、炭鉱、郷鎮企業等を予定。(2)日中のパートナーシップの継続について: インターネットによるネットワーク化の促進 北京大学・天津教育科学院・ハルビン工業大学を中心にネットワークの構築。各関連機関における環境教育関連事業、プログラム、カリキュラム等の情報を中心に交流を促進。(3)組織及び役員構成について: 日本側 組織強化のため、現在役員組織を検討中(審議中)。事務局は甲南大学に置く。中国側 組織再編の確認があった。会長 田徳祥氏、名誉会長 曹青陽氏、顧問:金世柏氏、事務局長:宋豫秦氏。事務局に北京大学に置く。(4)プロシーディングの発刊について IAEG年報に第2回シンポジウム・プロシーディングを収録する。次期大会の開催時迄に発刊予定。

[]懇談事項 次回シンポジウムにおいては、通常の会議(シンポジウム・分科会・ワークショップ等)に加え、エクスカージョンとして環境教育関係施設への訪問等もプログラムに入れていただきたいとの要請があった。今後グローバル・ネットワークを構築し、カナダ・タイなどにも継続的に情報を発信するシステムを設置していきたい。そのために欧文での情宣を定期的に日本事務局まで提供していただきたいとの依頼が中国事務局に対して要請された。情報は日本事務局をフォーカル・ポイントにし、各国に対して配信できるシステム化を検討していく。 以上

2. 第3回中日環境教育情報交流シンポジウム開催延期のお知らせ

2003年8月25日~31日に標記シンポジウム(於:中国・ハルビン工業大学)の開催を予定しておりましたが、近日のSARSウィルスの状況に鑑み、開催を延期することを理事会において決定しました。

会員の皆さまには、状況が好転した後、再度日程を調整し開催にかかる詳細事項を本誌におきましてお知らせ致したく存じます。よろしく御了承の程お願い致します。

3. 事務局からのお願い

自宅及び所属先の住所及び連絡先(TEL/FAX、E-mail等)に変更がある方は、下記事務局へ必ずお知らせくださいますようお願い致します。

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No. 9

事務局:「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内

Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage: http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html
